

公開講座「自分で広げる、自分の可能性」を開催しました

男女共同参画推進室は、2011年6月4日(土)、西早稲田キャンパス 52号館 201教室で、理工学術院 3研究科とオープン教育センターの合同開講科目である「科学とジェンダー」の授業から、テーマ「自分で広げる、自分の可能性」を公開講座として開催しました。講座は、株式会社ポーラ常務取締役小西尚子さんの講演と、4名の理系出身のポーラ社員によるパネルディスカッションで構成され、25名の参加者が熱心に耳を傾けました。

始めに、男女共同参画推進委員会副委員長の矢口徹也教授(教育・総合科学学術院)による本学の男女共同参画推進室の説明があり、続いて「人生には大きな岐路があり、どんな選択をするかでかわってくる」と小西さんの講演が始まりました。

成長実感とキャリアの経年変化を表すご自身のキャリア曲線を示され、5回の大きな転機を乗り越えた後のキャリアの広がりや成長、女性初の取締役になられる迄の軌跡を具体例をあげて語られました。「どん底からドラマが始まる」、人生で谷の時期を迎えた時に山を登れるかが重要、山を“課題”でなく“チャンス”と捉えて登ってほしい、実現できるかどうかは考え次第だと説かれました。また、キャリアに生かした理系の強みとして、数字に抵抗がない、論理的思考ができる、ノウハウのマニュアル化が得意、長期的展望を立てる能力の4利点をあげられました。さらに、女性の感性は大切にするものの、1人の人間として成長したいから仕事上の選択をしてきたと、ジェンダーに捉われない考えを示されました。

結びとして、①ポジティブ思考、②アクションをおこす、③“ありたい”自分を強くもつ思いの強さがエネルギーになる、の3つを強調され、自分の限界を設けず「大きな可能性を信じて自ら行動してほしい」とのメッセージをいただきました。

パネルディスカッションでは、研究職、人事担当者、IR担当者、企画管理担当者と、多様な職域のパネラー4名が登壇され、当該授業のコーディネーターである中村采女教授(理工学術院)の進行で、学生時代に熱心に取組んだことは? 仕事を選んだ決断ポイントは? 理系の学びが生きている点は? という、まさに学生が聞きたい質問に真摯に答えてくださいました。パネラーからは、学生時代の研究で培った思考の礎の重要性、化学の結晶である化粧品のもつ可能性に惹かれ仕事を選択した、理系の強みは、数字に抵抗感がない/何もないところから何かを導くことへの抵抗のなさは新しい仕事への挑戦に役立つ/冷静に客観的に事実をもとに考える思考は仕事へ汎用性が高いなど、経験に裏うちされた説得力のあるお話が聴けました。ジェンダーへの考えで変わったところは? という最後の質問には、仕事をして男女の垣根がとれ境目を意識しない、人として何に価値を感じて生きているかが大切、いきいき働いている女性に負けないよう働きたい、そういう女性をバックアップしたいと思うようになった、とジェンダーを意識しない考え方が語られました。

最後の質疑応答では、ジェンダーに関してつらい立場にある人へアドバイスを? という男子学生からの問いに、パネラーから、自分に自信をもって楽しく働ける場所を自分で模索して欲しい、と本日のテーマをまとめるような答えをいただくことができました。

